

第159話 中山の地蔵菩薩 その2 中山町 歴史散策

南小路のお地蔵様には、さらに特徴があり、堂の中に、草鞋と孔あき石が吊るされています。ほぼ1里以内の通行には草履を、遠距離の歩行は草鞋を用いたので、足まめに通行できるような祈願だと思われまます。

お地蔵様が身に着けている子どもの衣装は、改めて作られたものでしょうが、今日では娘が成長し、古くなって身丈の合わなくなつたものが多いようです。これは安産祈願、子育て祈願の意味で、無事成長した娘のお礼に着物を奉納したと思われ、男児のものはありません。

孔あき石には俗説が多く、単純に耳の病のまじないという説、商売上の情報が潤沢に入手できるように願つたものとか、金銭が蓄財できるようにとの願いから、扁平な石を挿り込んで貨幣のように大きな穴を作つたのだという説もあります。

このほか、三山詣での街道筋にも見られ、長崎から漆山、長崎から下川、三軒屋、落合を経て天童に至る街道、南小路から梅ヶ枝町を経て左沢に向かう参拝道路にも点在するのは、子育て祈願というより、交通の災難除けに設けられたものと思われまます。

また、一般に、水郷地帯に地蔵尊が多いのは、水難除けの祈願、子どもの水の事故の救済を願つたからと言われています。後に、子どもの成長祈願としての信仰が篤くなると、小さな利益の祈願となり、特に町場で

は、「いぼとり地蔵」「とげ抜き地蔵」「子安地蔵」「延命地蔵」「頭がち地蔵」など、子どもの成長を見守るお地蔵様が作られています。

地蔵信仰の中で、これとよく似たものに、六地蔵があります。霊界には地獄界から天上界まで6つの世界があつて、生前の行いによって死後配分されるといふ六道輪廻の思想が根底にあり、いずれの六道にも衆生救済の地蔵があつて、善行を積めば他の世界に導かれる救いの発想です。このような発想は、どのような境遇にあつても救われることを意味し、室町時代末からの寺の門前や墓地入口に一般に見られるようになりましたが、本町では南小路地蔵堂、土橋玉昌寺門前にも祀られています。

地蔵信仰の証である「講」が組まれ、祭りには夜念仏があり、和讃、御詠歌、般若心経などが、知つている経文を延々と唱えながら、講中衆は夜が更けるまで楽しんでやうです。明治以降はとみにすたれ、当町でもごくわずかに保存されているにすぎません。

【用語の説明】
草鞋：わらで編んだ履物のこと。わらじ。
頭がち地蔵：小白川街道に面した愛宕神社参道の入口にある「頭加地蔵」のこと。頭に智を与え、安産子育ての地蔵として信仰を集める。

※引用 中山町史 中巻
第10章第1節 庶民と信仰

私たちが地域おこし協力隊です！ No.25

新生活というには少し時期が遅くなった気もしますが、それぞれの日常が再開する中、4月に地域おこし協力隊として着任した稲垣です。3月号にも簡単な自己紹介を載せていただきましたが、今回さっそく連載担当となりました。これからよろしくお願ひいたします。

これまで日本史のほかに古文書や古民家の保存管理の勉強もしていましたが、着任後の初仕事は在宅作業！魅力いっぱいの中山町もまだ存分に散策できておりません…。残念ながら柏倉家の公開も延期になりましたが、既に活動中の協力隊や関係者、中山町の皆さんと一緒に、いろいろな方に来ていただき、楽しんでもらえるスポットを作っていきたいと思ひます。

古民家を展示していて「雰囲気は楽しめても、どれも同じに見えてしまう」という声が多いです。皆さん、古民家には見所がたくさんあります。例えば屋根の最頂部の「棟」にはいろいろな仕上げ方があります。柏倉家は丁寧に木をカバーのようにして棟を保護していますが、全国には木の細工を乗せたり、竹を巻き付けたり、瓦を乗せたり…。中には植物で固定する地域もあります(Ⓧ写真)。この違いには家の格式のほか、各地の気候や植物の種類など地理的な理由があることも多いです。もしほかの地域の古民家を見る機会があれば、ぜひ見比べてみてください。



川崎市立日本民家園にて (撮影：稲垣)

中山町に来た日にスーパーに行ってみました。気になる商品「みそぱん」がありました。地元の三重県津市でも愛知県の影響で味噌はなじみ深いのですが、味噌のお菓子は少なかったように思ひます。また、乾麺・乾物コーナーを見ると、ほかの地域より麺の種類が多い気がしました。そして大きなお麩が！そういえば、山形出身の知人に「山形の各家庭には大きな麩が吊るされている」という伝説(?)を聞きました。事実かどうか…。この新人中山町民の稲垣にぜひ教えてください。

●協力隊への問い合わせ先● メール：nakayamanonaka@gmail.com 事務所：中央公民館2階